

R5事務事業点検評価シート

No. 1

推進項目	学校教育の充実	所管課係名	学務課学校教育係		
事務事業名	学習サポートプログラム事業				
・開始年度	平成23年度	・見直予定(終了)年度			
年度目標(目的) * 目標値の設定ができれば記入					
児童生徒の確かな学力を育むため、放課後や長期休業中における学習サポートを実施。学力定着には家庭学習の習慣が必要であることから、保護者の理解と協力を促す取り組みとして、各学校で家庭学習の手引きを作成し配布。					
内容(実績) * 主催(主体)、期日(期間)、会場(対象範囲)、参加実績等を記入 * 目標値の設定があれば、実績値及び達成率も記入					
<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の放課後教室及びチャレンジ深川は、ボランティア講師がサポートし、中学校放課後教室は、民間塾に委託して実施している。 ・放課後教室 小学校(6校・全学年)6月～3月 318名(参加率46.7%、前年度46.9%)※延べ105回 中学校(2校・3年生)8月～2月 70名(参加率60.3%、前年度50.8%)※各校10回ずつ ・チャレンジ深川(長期休業期間に実施) 夏 7/27～ 8/1(4日間) 6小学校 348名(参加率51.1%、前年度53.6%) 冬 12/25～12/28(4日間) 6小学校 352名(参加率51.7%、前年度46.4%) ※冬のみ、中学生ボランティアを試験導入 3小学校に17名を配置 ・家庭学習の手引きを各校で作成・配布し、家庭学習の習慣化を図った。 					
・R5予算額(当初)	4,402千円	・R4予算額(当初)	4,200千円	・R3予算額(当初)	4,184千円
・R5決算額	3,742千円	・R4決算額	3,823千円	・R3決算額	2,750千円
項目別点検評価 * A: 順調である、B: おおむね順調である、C: 一部困難な問題点(課題)がある、D: 困難な問題点(課題)がある					
・達成度	B	理由: 小学校の参加率は前年度同様、中学校は前年度よりも参加率が9.5ポイント上がった。			
・効果度	A	理由: 参加者及び保護者からのアンケート調査の結果から、学習意欲の向上、家庭学習に対する保護者の理解と協力の促進に寄与している。			
今後の取組み					
・問題点(課題)	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の放課後教室及びチャレンジ深川の継続には、ボランティア講師の確保が必須となり、今後も人材確保が課題となる。 ・また、中学校放課後教室については、委託先の人手不足から、実施形態の見直しが求められている。 				
・改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・開催日数や実施内容、形態などを検討するほか、中学生ボランティアの試験導入の成果があることから、令和6年度からは、すべての小学校に中学生ボランティアを配置する。 ・また、中学校においては、民間塾と講師の派遣や実施形態について調整を行う。 				
総合評価 * ①: 充実・拡大、②: 現状維持(見直し含)、③: 統合・代替、④: 移管・縮小、⑤: 休止・廃止・完了を含めて記入					
②	理由: アンケート調査からも本事業の効果は認められることから、事業を継続しつつも、確かな学力を育む効果的な事業を引き続き検討する。				

R5事務事業点検評価シート

No. 2

推進項目	学校教育の充実		所管課係名	学務課学校教育係	
事務事業名	適応指導教室設置				
・開始年度	平成12年度		・見直予定(終了)年度	令和6年度	
年度目標(目的) * 目標値の設定ができれば記入					
何らかの理由で学校に行きにくくなった児童生徒に対し、社会的自立支援並びに学校復帰に向けて、きめの細かい指導や支援を行う多様な学びの場として設置					
内容(実績) * 主催(主体)、期日(期間)、会場(対象範囲)、参加実績等を記入 * 目標値の設定があれば、実績値及び達成率も記入					
○設置場所 総合福祉センター内 ○指導体制 室長(SSW兼務)、指導員2名 ○指導方針 ・当該児童生徒と指導員の信頼関係を基盤としながら心豊かに学ぶ場とする。 ・体験的な活動や交流活動を通しコミュニケーション力の育成を目指す。 ・保護者や学校と連携を図り、学校復帰などの社会的自立を目指す。 ・週に1回程度、軽運動を実施して体力の向上を図る。 ○在籍者数 R3年度 5名 R4年度 7名 R5年度 10名					
・R5予算額	328千円	・R4予算額	295千円	・R3予算額	200千円
・R5決算額	297千円	・R4決算額	288千円	・R3決算額	170千円
項目別点検評価 * A: 順調である、B: おおむね順調である、C: 一部困難な問題点(課題)がある、D: 困難な問題点(課題)がある					
・達成度	B	理由: 年々在籍する児童生徒数が増え、希望するすべての児童生徒を常時受け入れることが困難ではあるが、可能な限り、指導や支援を行った。			
・効果度	A	理由: 指導員と接することでコミュニケーション力の向上、学校からのリアルタイムでの授業配信の視聴により学力向上が見られるなど、社会的自立及び学校復帰に向けた支援を図ることができた。			
今後の取組み					
・問題点(課題)	・指導室の広さから、受け入れできる児童生徒数に限りがあり、また、空調も整備されていないため、健康への配慮が必要な状況となっている。				
・改善策	・庁舎移転に伴い、指導室を健康福祉センター「デ・アイ」に移転を検討する。 ※R6年4月移転済み				
総合評価 * ①: 充実・拡大、②: 現状維持(見直し含)、③: 統合・代替、④: 移管・縮小、⑤: 休止・廃止・完了を含めて記入					
②	理由: 多様な学びの場として、希望する児童生徒を受け入れができるよう指導室の移転・拡充を検討しながら、運営を継続する。				

R5事務事業点検評価シート

No. 3

推進項目	学校教育の充実	所管課係名	学務課学校教育係		
事務事業名	深川市特別支援教育推進委員会運営				
・開始年度	平成19年度	・見直予定(終了)年度			
年度目標(目的) * 目標値の設定ができれば記入					
障がいのある児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた、適切な教育支援を図るため、教育委員会が医学、心理学、教育関係者、児童福祉関係者、学識経験者の中から委嘱した委員により組織し、教育委員会の諮問に応じて教育措置に関する意見の答申及び小中学校内委員会や特別支援教育コーディネーターへの支援等を行う。					
内容(実績) * 主催(主体)、期日(期間)、会場(対象範囲)、参加実績等を記入 * 目標値の設定があれば、実績値及び達成率も記入					
○特別支援教育推進委員会では、教育委員会の諮問に応じて、障がいのある児童生徒の障がいの種類、程度等の判断を行い、教育措置に関する意見を答申する。また、推進委員会内に特別支援教育コーディネーターと専門調査委員を設置し、教育相談対象者の決定については、専門調査委員が調査を行い、教育相談は特別支援コーディネーターが行っている。 ○教育的ニーズに対応するための教員への研修を実施する。 ・教育措置の審議対象者数 R3 50名(全児童生徒数の4.7%) R4 71名(全児童生徒数の6.7%) R5 69名(全児童生徒数の6.7%) ・教育相談(心理検査・親子面談)対象者数 ※上記のうち教育相談の対象者数 R3 33名(全児童生徒数の3.1%) R4 54名(全児童生徒数の5.1%) R5 38名(全児童生徒数の3.7%)					
・R5予算額	477千円	・R4予算額	401千円	・R3予算額	406千円
・R5決算額	167千円	・R4決算額	241千円	・R3決算額	267千円
項目別点検評価 * A:順調である、B:おおむね順調である、C:一部困難な問題点(課題)がある、D:困難な問題点(課題)がある					
・達成度	B	理由:教育措置に関する意見は円滑に答申できたが、研修は、新型コロナウイルス感染症の影響で中止となった以降、再開することができていない。			
・効果度	A	理由:教育措置に関する意見を答申することで、教育的ニーズに応じた特別支援学校や特別支援学級、通級等による支援ができた。また、当該児童生徒の教育相談時に、在籍する学校担当者が同席することで、その後の対応にも繋げることができた。			
今後の取組み					
・問題点(課題)	・人手不足により有識者の専門職を配置できていないことから、教員が特別支援教育コーディネーターを担っている。 ・また、教育相談対象者数が年々増えていることもあり、教員の負担が非常に大きくなっている。				
・改善策	・人材確保が必要だが、当面、現体制での分担等で効果的・継続的な運営を行う。				
総合評価 * ①:充実・拡大、②:現状維持(見直し含)、③:統合・代替、④:移管・縮小、⑤:休止・廃止・完了を含めて記入					
②	理由:児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた、適切な教育支援を図るために必要な業務であり、今後も継続した運営を行う。				

R5事務事業点検評価シート

No. 4

推進項目	学校教育の充実		所管課係名	学務課管理係	
事務事業名	公立高等学校の魅力づくり事業(交付金事業)				
・開始年度	平成26年度		・見直予定(終了)年度		
年度目標(目的) * 目標値の設定ができれば記入					
<p>子ども達の進路選択の幅を広げるとともに、地域に必要となる人材の定着を図る上で深川西高校及び深川東高校両校の存続が必要であることから、入学者確保に向けた両校の魅力づくりに資する取り組みに支援する。</p> <p>目標とする入学者数は、深川西校81人以上(3学級の維持)、深川東高校 生産科学科10人以上(1学級の維持)としている。</p>					
内容(実績) * 主催(主体)、期日(期間)、会場(対象範囲)、参加実績等を記入 * 目標値の設定があれば、実績値及び達成率も記入					
<p>市内公立高校に通う生徒を支援する両高校の団体(PTA)に対し、資格取得・研修等に係る費用や通学交通費の一部を助成したほか、令和4年度から新たに深川西高校の学力向上に関するスタディサブリの利用料助成を追加支援している。</p> <p>■深川西高校 交付額 5,038千円 ①将来の目標・意識付けに関する事業(カタリ場) 808千円、 ②模擬試験・検定等受験料助成事業 2,213千円(延871名)、 ③学力向上に関する事業 98千円(延22名)、 ④広報活動 261千円、⑤通学交通費助成事業 1,658千円(82名)</p> <p>■深川東高校 交付額 2,295千円 ①生徒の研修等に関する事業 102千円、 ②研修・検定・資格取得養成講座等受講料助成事業 1,256千円(延572名) ③学力向上に関する事業 157千円、 ④広報活動 152千円、⑤通学交通費助成事業 628千円(26名)</p>					
・R5予算額	7,560千円	・R4予算額	7,560千円	・R3予算額	7,560千円
・R5決算額	7,333千円	・R4決算額	7,269千円	・R3決算額	6,829千円
項目別点検評価 * A: 順調である、B: おおむね順調である、C: 一部困難な問題点(課題)がある、D: 困難な問題点(課題)がある					
・達成度	B	<p>理由: 深川西高校及び深川東高校と連携を図ることで、生徒や学校のニーズを踏まえた支援を行うことができたが、目標としている入学者数には届かなかった。</p> <p>R6入学者 西高74人、東高26人(うち生産科学科 8人) R5入学者 西高80人、東高35人(うち生産科学科11人)</p>			
・効果度	B	<p>理由: 本事業の継続により、市内公立高校の魅力の浸透に一定の効果을あげている。</p>			
今後の取組み					
・問題点(課題)	<p>・両校と連携を図りながら入学者増に有効と思われる支援を実施しているものの、目標としている入学者数を確保できていない。</p> <p>・学校に求められる魅力の分析を進め、本事業の充実と周知の強化を進める必要がある。</p>				
・改善策	<p>・市が中心となり、市内小・中学校、高校、関係者(北空知教育委員会、高校の同窓会等)と連携する中で、さらなる魅力づくりについて検討を進める。</p> <p>・北空知管内の小・中学生及び保護者に対して、両校へのきめ細かな魅力をまとめた情報とセットで事業内容を周知し、両校への進路希望者を増加させる。</p>				
総合評価 * ①: 充実・拡大、②: 現状維持(見直し含)、③: 統合・代替、④: 移管・縮小、⑤: 休止・廃止・完了を含めて記入					
②	<p>理由: 少子化の中では入学者を急増させることは難しいが、本市は北海道教育委員会に対して両校の存続を求めている立場であるとともに、本事業による一定の効果も認められていることから、引き続き事業を継続していく。</p>				

R5事務事業点検評価シート

No. 5

推進項目	社会教育の充実		所管課係名	生涯学習スポーツ課社会教育係	
事務事業名	学校支援地域本部事業				
・開始年度	平成20年度		・見直予定(終了)年度		
年度目標(目的) * 目標値の設定ができれば記入					
学校と地域との連携を強化し、地域全体で学校を支援する体制を構築することで、多様な体験学習などによって総合的な教育力の向上を図る。					
内容(実績) * 主催(主体)、期日(期間)、会場(対象範囲)、参加実績等を記入 * 目標値の設定があれば、実績値及び達成率も記入					
○推進会議:1回開催 ○地域ボランティアの登録:個人 18人、団体 18団体 ○学習支援活動:8校 184件(農業体験、郷土の自然・生活・文化、読書教育、人権教育など) ○環境美化・環境教育6校 24件(花育、校庭樹木の剪定など) ○学校行事:8校 19件(クラーク高校との交流、通学合宿、かぼちゃ細工など) ○職場体験:2校 50事業所 キャリア教育には16人の支援 ○登下校の見守り:6校(すきやき隊(地域ボランティア)における登下校の見守り、声かけ運動) ○広報紙「地域と学校」の発行:第1号～第8号(学校、公共施設、関係機関等に配布) ○成果報告会:令和6年2月14日 ○成果報告パネル展の開催:令和6年2月14日～18日 生きがい文化センター					
・R5予算額	209千円	・R4予算額	209千円	・R3予算額	209千円
・R5決算額	185千円	・R4決算額	174千円	・R3決算額	168千円
項目別点検評価 * A:順調である、B:おおむね順調である、C:一部困難な問題点(課題)がある、D:困難な問題点(課題)がある					
・達成度	A	理由:学校からの求めに応じて、地域ボランティアを活用した事業を実施したことで、児童・生徒に多様な体験活動を提供することができた。広報紙「地域と学校」を8回発行し、各校での地域ボランティアの活動と取り組みを周知することができた。			
・効果度	A	理由:学校の教育活動に地域住民がボランティアとして豊かな知識と経験を生かす場となっているとともに、地域の子どもは地域で育てるという意識づくりにつながっている。			
今後の取組み					
・問題点(課題)	・深川市学校支援人材バンク登録者における高齢化や、活動の機会をもつことができない登録者がいる。				
・改善策	・新たなボランティアの発掘と、登録者を活用するためのコーディネートに努める。				
総合評価 * ①:充実・拡大、②:現状維持(見直し含)、③:統合・代替、④:移管・縮小、⑤:休止・廃止・完了を含めて記入					
②	理由:本事業は順調に実施しており、効果を上げていることから現事業を継続していく。				

R5事務事業点検評価シート

No. 6

推進項目	社会教育の充実	所管課係名	生涯学習スポーツ課社会教育係		
事務事業名	生涯学習出前講座				
・開始年度	平成9年度	・見直予定 (終了)年度			
年度目標(目的) * 目標値の設定ができれば記入					
市民団体が主催する研修会に市職員が講師として、市政の説明をはじめ様々な専門知識を生かした学習機会を提供することにより、市政に対する理解の促進や生涯学習に対する意識の高揚を図る。					
内容(実績) * 主催(主体)、期日(期間)、会場(対象範囲)、参加実績等を記入 * 目標値の設定があれば、実績値及び達成率も記入					
○期間:年間(午前9時から午後9時までの2時間以内) ○対象:市内に在住又は在勤・在学する10人以上で構成された団体 ○会場:申込み団体にて設定(市内に限る) ○講座メニュー数:63(前年63) ○実績:29件(前年15件) 延559人(前年315人) ※講座の一層の充実を図っていくため、終了後、受講者アンケートの協力依頼					
・R5予算額	0千円	・R4予算額	0千円	・R3予算額	0千円
・R5決算額	0千円	・R4決算額	0千円	・R3決算額	0千円
項目別点検評価 * A:順調である、B:おおむね順調である、C:一部困難な問題点(課題)がある、D:困難な問題点(課題)がある					
・達成度	A	理由:新型コロナウイルス感染症の5類移行後、利用は29件と概ねコロナ禍以前の水準まで回復した。受講者からは、市職員による専門的知識を生かした講話・実技等が気軽に受講でき、講座の内容もわかりやすいと好評であり、身近な学習機会の提供ができたものとする。			
・効果度	A	理由:①生涯学習の取り組みに寄与している。 ②市民に市職員や市の施策等を身近に感じてもらえる機会となっているとともに、市にとっても市民と接することで、施策に対するニーズ等を把握する場にもなっている。			
今後の取組み					
・問題点(課題)	・これまでに複数回利用している団体も多く、新メニューの構築や受講者のニーズに沿った内容を検討する必要がある。				
・改善策	・アンケート結果を基に、関係各課と内容のリニューアル等も含めて調整する。				
総合評価 * ①:充実・拡大、②:現状維持(見直し含)、③:統合・代替、④:移管・縮小、⑤:休止・廃止・完了を含めて記入					
②	理由:本事業は順調に実施しており、効果を上げていることから現事業を継続していく。				

R5事務事業点検評価シート

No. 7

推進項目	社会教育の充実		所管課係名	生涯学習スポーツ課社会教育係	
事務事業名	市民公開講座				
・開始年度	平成26年度		・見直予定(終了)年度		
年度目標(目的) * 目標値の設定ができれば記入					
学びのきっかけづくりとして、気軽に学習活動や仲間づくりを楽しみながら教養を高め、学びの輪が拡大することで生涯学習に対する理解や関心を高めることをねらいとして実施する。					
内容(実績) * 主催(主体)、期日(期間)、会場(対象範囲)、参加実績等を記入 * 目標値の設定があれば、実績値及び達成率も記入					
第1回:食用種子カボチャの機能性と北海道新顔野菜について 令和5年5月27日 参加者数:39人 講師:上西 孝明 助教 第2回:子どもの発達 ~言葉と運動面から理解しよう~ 令和5年7月8日 参加者数:14人 講師:山田 克巳 教授 第3回:音楽とかかわる 令和5年8月5日 参加者数:28人 講師:玉木 裕 教授 第4回:北海道産花卉の魅力と切り花を長く楽しむ方法 令和5年8月19日 参加者数:28人 講師:小林 孝夫 教授 第5回:北海道の子育て世帯の状況と官民による子ども子育て支援の取り組み 令和5年9月9日 参加者数:18人 講師:工藤 遥 准教授 ※R5延べ参加者数:127人(前年延べ参加者数:75人) ※会場はいずれも拓殖大学北海道短期大学					
・R5予算額	111千円	・R4予算額	111千円	・R3予算額	111千円
・R5決算額	90千円	・R4決算額	110千円	・R3決算額	109千円
項目別点検評価 * A:順調である、B:おおむね順調である、C:一部困難な問題点(課題)がある、D:困難な問題点(課題)がある					
・達成度	A	理由:地元の教育的資源である大学の協力のもと、教授等から専門的知識を活かした講話を聞く貴重な機会として受講者にも大変好評であり、学習機会を提供することができた。			
・効果度	A	理由:教授等の講話を聞く貴重な機会であり、講話の内容もわかりやすく、市民向けの教養講座として、学びに対するきっかけづくりとなった。また、道民カレッジと連携することで、カレッジ単位取得の機会を提供した。			
今後の取組み					
・問題点(課題)	・参加者数が減少傾向にあるため、周知等工夫が必要。 ・60歳代以上の参加者が約6割となっており、若い世代の参加が少ない。				
・改善策	・拓殖大学北海道短期大学と連携を図りながら、若い世代も取り込めるような講座内容と周知方法について検討する必要がある。				
総合評価 * ①:充実・拡大、②:現状維持(見直し含)、③:統合・代替、④:移管・縮小、⑤:休止・廃止・完了を含めて記入					
②	理由:本事業は順調に実施しており、効果を上げていることから現事業を継続していく。				

R5事務事業点検評価シート

No. 8

推進項目	文化・スポーツの振興	所管課係名	生涯学習スポーツ課文化・スポーツ係		
事務事業名	文化振興事業				
・開始年度		・見直予定(終了)年度			
年度目標(目的) * 目標値の設定ができれば記入					
芸術・文化の発表・鑑賞機会を設け、文化活動に対する市民の意識啓発と創造活動の促進・拡充を図る。					
内容(実績) * 主催(主体)、期日(期間)、会場(対象範囲)、参加実績等を記入 * 目標値の設定があれば、実績値及び達成率も記入					
<p>○深川市文化総合芸術祭:市内で活動する文化・芸術団体による発表、展示を行う市民参画型事業。事業の企画運営は深川市文化連盟に委託 展示部門 10月29日～11月3日(中央公民館) 参加15団体289作品 舞台部門 10月29日、11月3日(文化交流ホールみ・らい) 参加23団体188人 入場者数 1,200人</p> <p>○室内楽の夕べ:札幌交響楽団のトップメンバーらと、市内在住ピアニストとの共演によるクラシックコンサート。 10月9日(文化交流ホールみ・らい) 入場者216人</p> <p>○市民文化事業開催助成金:市内施設において市民団体・実行委員会が独自公演、招聘事業を開催する経費の一部を助成するもの。交付団体:7団体(前年6団体)</p> <p>○全道・全国各種文化大会派遣助成 0件(前年2件)</p> <p>○深川市文化連盟活動交付金:社会教育活動団体として、深川市の芸術文化活動を支えている市文化連盟の活動に対する交付金 加盟団体:43団体(402人)(前年47団体 404人)</p> <p>※各種助成事業の採択状況により各年度の予算決算額の増減あり</p>					
・R5予算額	5,454千円	・R4予算額	6,564千円	・R3予算額	5,805千円
・R5決算額	4,555千円	・R4決算額	5,907千円	・R3決算額	5,503千円
項目別点検評価 * A:順調である、B:おおむね順調である、C:一部困難な問題点(課題)がある、D:困難な問題点(課題)がある					
・達成度	A	理由:深川市文化総合芸術祭と室内楽の夕べを開催し、活動成果を発表する機会や、質の高いクラシック音楽の鑑賞機会を提供することができた。また、市民団体等が主催する文化公演等に対して助成することにより、市民の芸術・文化活動の振興に繋がった。			
・効果度	A	理由:文化連盟や芸術・文化公演事業等を実施する文化団体等に対して助成・支援したことで、各団体の活性化の契機となった。			
今後の取組み					
・問題点(課題)	・文化連盟においては従前から加盟団体の高齢化が進んでおり、市民の芸術・文化活動の継続が困難な状況も見られる。				
・改善策	・市内における新たな芸術・文化活動団体の掘り起こしに努める。				
総合評価 * ①:充実・拡大、②:現状維持(見直し含)、③:統合・代替、④:移管・縮小、⑤:休止・廃止・完了を含めて記入					
②	理由:本事業は順調に実施しており、効果を上げていることから、現事業を継続していく。				

R5事務事業点検評価シート

No. 9

推進項目	文化・スポーツの振興	所管課係名	生涯学習スポーツ課文化・スポーツ係		
事務事業名	体育振興事業				
・開始年度		・見直予定(終了)年度			
年度目標(目的) * 目標値の設定ができれば記入					
市民のスポーツ参加を促進し、スポーツ活動により健康増進を図ることができるよう、市民皆スポーツ事業を実施する。					
内容(実績) * 主催(主体)、期日(期間)、会場(対象範囲)、参加実績等を記入 * 目標値の設定があれば、実績値及び達成率も記入					
<p>○全道・全国各種スポーツ大会派遣助成 0件(前年1件)</p> <p>※小中高校生に係る助成は学務課が担当</p> <p>○全道・全国各種スポーツ大会開催助成:全道・全国大会開催6回(前年7回)</p> <p>○深川市スポーツ協会交付金:地域スポーツの普及振興と健康増進の推進組織への支援</p> <p>○深川市スポーツ少年団本部交付金:地域スポーツ少年団の育成・指導と推進組織への支援</p> <p>○各種スポーツ推進委員活動</p> <p>※以下事業の企画運営は、NPO法人深川市スポーツ協会に委託</p> <p>○スポーツ・レクリエーションフェスタ:10月9日(総合体育館) 参加者440人(前年326人)</p> <p>○音江連山登山コース開き:6月11日 参加者36人(前年28人)</p> <p>○ふかがわカップ全道小学生バレーボール優勝大会:9月16日～17日(総合体育館) 参加者1,060人(前年801人)</p> <p>○歩くスキーコース造成:12月23日～3月18日(総合運動公園) 利用者延941人(前年926人)</p> <p>○学校体育施設開放事業:4月～令和6年3月 利用者31団体473人(前年29団体461人)</p>					
・R5予算額	1,127千円	・R4予算額	1,164千円	・R3予算額	939千円
・R5決算額	638千円	・R4決算額	733千円	・R3決算額	562千円
項目別点検評価 * A:順調である、B:おおむね順調である、C:一部困難な問題点(課題)がある、D:困難な問題点(課題)がある					
・達成度	A	理由:子どもから高齢者まで誰もが気軽に参加できる市民参加型のスポーツイベントの開催と、スポーツに親しむきっかけづくりに努めた。また、助成事業や交付金等により、市民のスポーツ活動の促進と健康増進が図られた。			
・効果度	A	理由:スポーツ競技者・団体等に対して助成・支援したことで、市民のスポーツ活動促進の契機となった。			
今後の取組み					
・問題点(課題)	・安全・安心にスポーツに親しむことができる機会の確保。				
・改善策	・気軽に参加できる事業開催方法の検討。				
総合評価 * ①:充実・拡大、②:現状維持(見直し含)、③:統合・代替、④:移管・縮小、⑤:休止・廃止・完了を含めて記入					
②	理由:本事業は一定の効果を上げていることから、現事業を継続していく。				

R5事務事業点検評価シート

No. 10

推進項目	文化・スポーツの振興	所管課係名	生涯学習スポーツ課文化・スポーツ係		
事務事業名	スポーツ合宿招致				
・開始年度	平成7年度	・見直予定(終了)年度			
年度目標(目的) * 目標値の設定ができれば記入					
積極的な合宿招致活動を推進することにより、市民のスポーツへの興味・関心や参加意欲を高めるとともに、スポーツ施設の有効活用とスポーツの普及振興、交流人口の増加や市の知名度アップなど多くの効果が得られるため、スポーツ合宿を通じた活力あるまちづくりと地域経済の活性化を図る。					
内容(実績) * 主催(主体)、期日(期間)、会場(対象範囲)、参加実績等を記入 * 目標値の設定があれば、実績値及び達成率も記入					
これまで来市している道外の実業団及び大学陸上中長距離チームへの訪問や、深川市のほか道内4会場で開催されるホクレン・ディスタンスチャレンジ大会などにおいて合宿招致活動を実施し、エフパシオを拠点施設とした合宿の受け入れ対応を行った。 ・合宿実績:実業団19チーム 大学等 272チーム 計291チーム 実人数9,758人 延宿泊数16,872泊 (前年:実業団16チーム 大学等 151チーム 計167チーム 実人数5,066人 延宿泊数10,431泊) ・ホクレン・ディスタンスチャレンジ深川大会 7月5日 出場選手297人 観戦者500人 ※R4年度予算・決算額は、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金事業分を除く					
・R5予算額	12,746千円	・R4予算額	1,383千円	・R3予算額	6,679千円
・R5決算額	11,510千円	・R4決算額	1,061千円	・R3決算額	6,354千円
項目別点検評価 * A: 順調である、B: おおむね順調である、C: 一部困難な問題点(課題)がある、D: 困難な問題点(課題)がある					
・達成度	A	理由:大会等開催地に赴いての合宿招致活動を行い、前年度から合宿数を大幅に増加させることができた。引き続き、北海道を代表するスポーツ合宿のまちとして知名度の向上と施設充実に努めていく。			
・効果度	A	理由:ホクレン・ディスタンスチャレンジ深川大会を開催し、市民のスポーツ意識の向上とスポーツの普及振興、施設の有効活用、合宿地としての知名度アップ、地域経済の活性化など多様な効果が得られた。			
今後の取組み					
・問題点(課題)	<ul style="list-style-type: none"> ・道内外の実業団や大学チームに合宿地として定着していただけるよう、各チームのニーズを把握するなど、きめ細かな対応が必要。 ・チームのニーズに合う宿泊施設の不足及び競技施設等の老朽化。 ・年間を通じた合宿招致事業に取り組む必要がある。 				
・改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・市ホームページを活用したスポーツ合宿地としての宣伝のほか、ホクレン・ディスタンスチャレンジ深川大会の開催や、新たなチームの合宿確保に向けて、積極的に合宿招致活動を実施するとともに、既に深川で合宿をしているチームには、感想を求めなどニーズの把握に努め、合宿チーム数の増加に努める。 ・令和3年度に教育研修用資材やスキーワックスルームを整備したエフパシオを最大限に活用することで、冬季における合宿を掘り起こし、通年で宿泊者増につなげる。 				
総合評価 * ①: 充実・拡大、②: 現状維持(見直し含)、③: 統合・代替、④: 移管・縮小、⑤: 休止・廃止・完了を含めて記入					
②	理由:本事業は順調に実施しており、効果を上げていることから、現事業を継続していくとともに、文化事業の合宿招致にも取り組む。				